

## 4 高齢者の交通安全対策に 対するアンケート調査結果 (企業向け)

# アンケート調査実施概要 企業

○企業アンケートでは、「CSR(企業の社会的責任)」・「CSV(共通価値の創造)」に関する取組状況とともに、委員へのヒアリングを通じて整理したそれらを支援する「対策(案)の受容性」についてアンケート調査を行った

## ＜企業向け＞

実施期間:平成30年10月中旬～11月中旬

調査対象:愛知県内に住所を置く企業

実施方法:愛知県安全運転管理協議会の協力の下、愛知県下の企業にアンケートを送付して実施

回収結果:300社

## アンケート調査項目

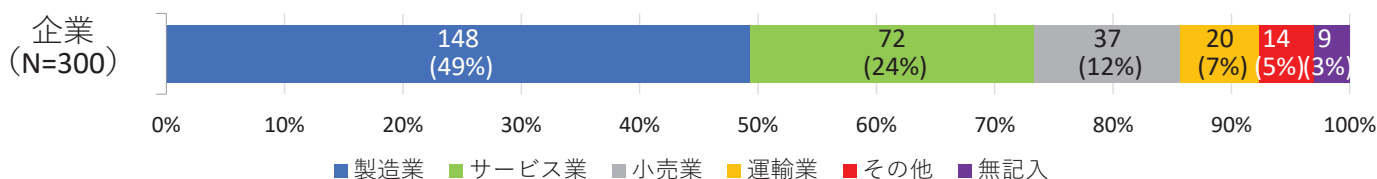
大項目	小項目	狙い
企業属性	・業種 ・従業者数 ・所在地	分類
CSR・CSVの取組	・CSRの取組有無・内容・理由 ・CSVの取組有無・内容・理由	現状確認
対策の受容性	○交通安全に関するCSR・CSVを支援する対策 ・交通安全教育に関する情報提供 ・安全運転サポート車への切替がもたらす効果の情報提供 ・安全運転サポート車への切替に対する補助制度 ・交通安全CSR・CSVに関するパンフレット作成 ・交通安全ビジネスモデルコンペ	対策効果の判断

## 企業属性（業種・所在地）

○業種:製造業が多いが、様々な業種の企業になっている

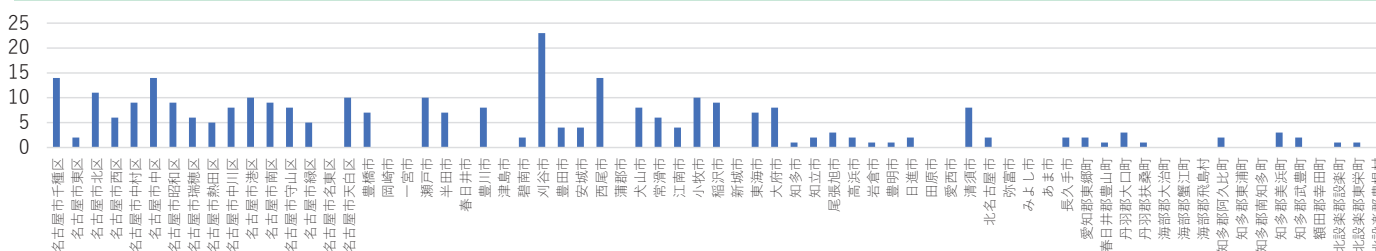
○所在地:市街地から郊外部まで、様々な地域の企業からアンケートを集約している

### 【業種】



集計分類	業種
製造業	建設・土木・工業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、情報通信機械器具製造業、電気機械器具製造業(上記に含まれないもの)、その他製造業
サービス業	電気・ガス・熱供給・水道業、通信業、情報サービス業、その他の情報通信業、金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門技術者、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス業、その他サービス業
小売業	卸売業・小売業
運輸業	運輸業・郵便業
その他	上記以外

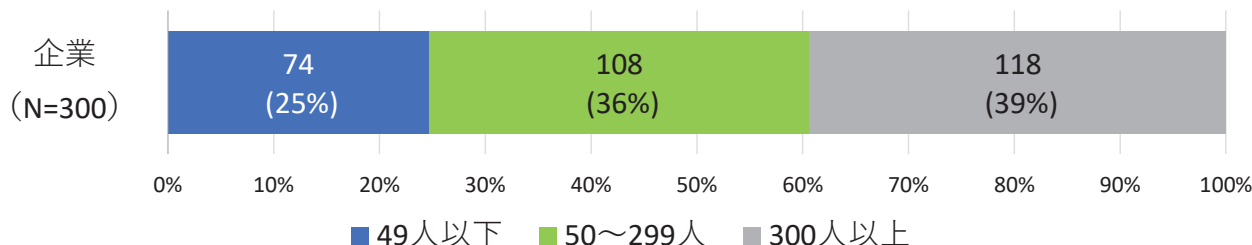
### 【所在地】



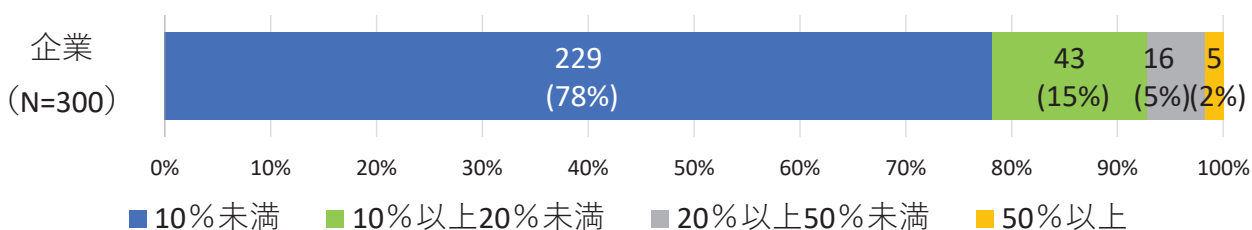
## 企業属性（従業員数・65歳以上従業員の割合）

○従業員数：従業員数の多い事業者から少ない事業所まで、様々な事業所から集約している  
○65歳以上従業員の割合：約8割の事業所が10%未満

【従業員数】



【65歳以上従業員の割合】



## CSRに関する取組

**CSR（Corporate Social Responsibility）とは：**

企業による環境に配慮した活動、社会貢献活動をはじめ、本来事業そのものとは異なる活動を通じて、地域社会と共存し貢献することである（例：従業員の交通安全教育、交通安全立哨活動等）。

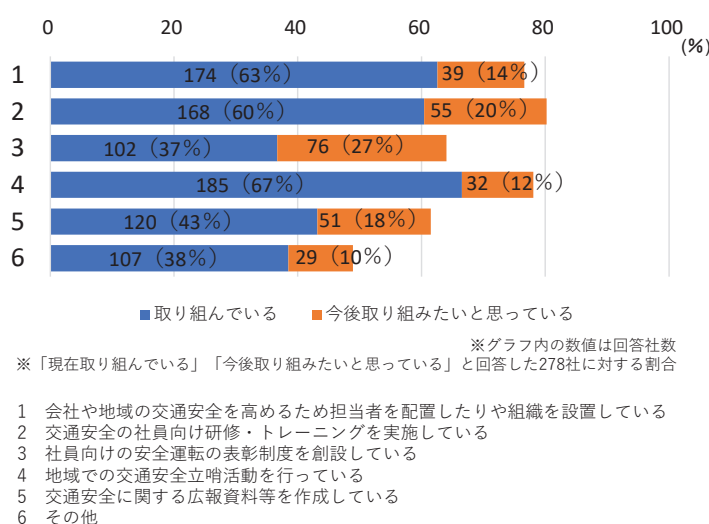
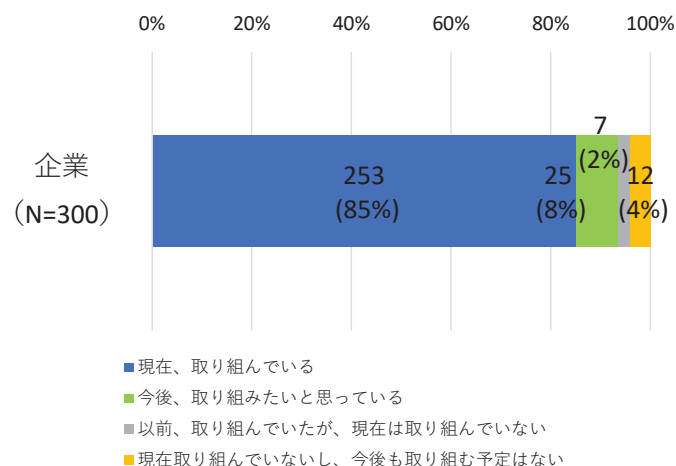
# CSRに関する取組

○約85%の企業がCSRに対する取組を実施している  
 ○交通安全担当者の配置・組織の設置、社員向け交通安全研修、交通安全立哨活動を行っている企業が多い

## 【CSRに関する取組】

## 【交通安全に関する取組内容】

Q4-1 貴社では、CSR(企業の社会的責任)に取り組んでいますか。当てはまるものに○をつけてください。  
 Q4-2 Q4-1で「1.現在、取り組んでいる」もしくは「2.今後、取り組みたいと思っている」と回答された企業にお伺いします。貴社では、現在、以下のようなCSRを意識した交通安全に関する取り組みはされていますか。1~6の取り組みすべてについてご回答ください。



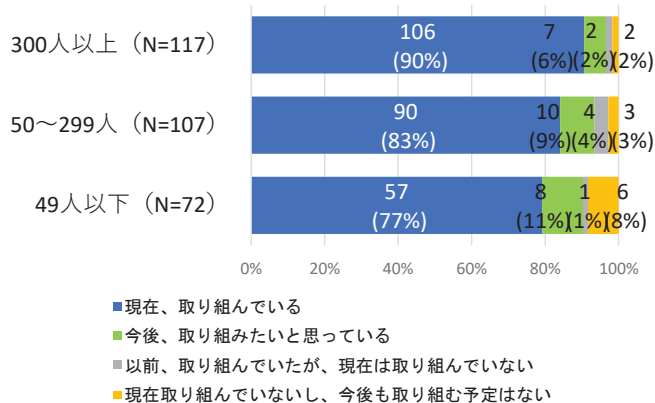
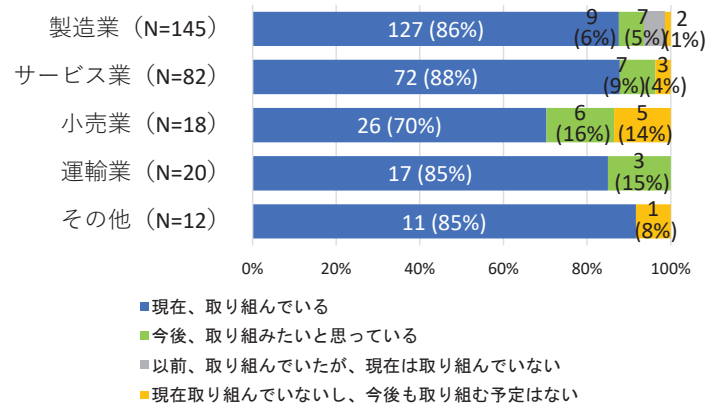
# CSRに関する取組（業種・規模別）

○小売業でCSRに取り組んでいない企業が比較的多い  
 ○従業員数が多い方が、CSRに取り組んでいる割合が高い

## 【業種×CSRに関する取組】

## 【従業員数×CSRに関する取組】

Q4-1 貴社では、CSR(企業の社会的責任)に取り組んでいますか。当てはまるものに○をつけてください。



# CSRに関するその他の取組

## 【交通安全に関する取組内容】

Q4-3 Q4-2で「6.その他」で「1.取り組んでいる」もしくは「2.今後取り組みたいと思っている」と回答された企業にお伺いします。その具体的内容についてご記入ください。

- 地域での交通安全教育の実施（10社）
  - ・幼稚園での交通安全教室（ミュージカル形式での交通安全教室など）
  - ・小学校での交通安全教室（安全な自転車の乗り方、歩きスマホの危険性など）
  - ・中学校・高校での交通安全教室（スタントマンによる危険な自転車走行に伴う交通事故の再現など）
  - ・高齢者を対象とした交通安全教室（ASVの試乗体験、体操で身体機能の低下予防など）
- 社用車の交通安全対策（13社）
  - ・ドライブレコーダーを全車導入
  - ・ドライブレコーダーの映像から、社員の運転傾向を把握して分析
  - ・自動車学校で運転講習後、社内でも運転確認テストを行い、社用車使用許可の判断
- 交通安全グッズの配布（2社）
  - ・地域のスーパーなどに協力してもらい、交通安全グッズの配布
  - ・地元中学校への反射リストバンドの寄付
- その他
  - ・社員に無事故無違反手当を毎月支給

※Q4-3の回答が空白の場合は除外している

# CSRに関する取組を行っていない理由

## 【CSRに関する取組を行っていない理由】

Q4-4 Q4-1で「3.以前、取り組んでいたが、現在は取り組んでいない」もしくは「4.現在取り組んでいないし、今後も取り組む予定はない」と回答された企業にお伺いします。その具体的な理由についてご記入ください。

- 時間的な余裕がない（9社）
- その他
  - ・会社の規模が小さく取り組む必要性が見つからない（1社）
  - ・費用対効果が明確でない（1社）
  - ・担当者の退職に伴い、業務継承が行われていない（1社）
  - ・貢献できることがわからない（2社）

※Q4-4の回答が空白の場合は除外している

# CSVに関する取組

**CSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）とは：**

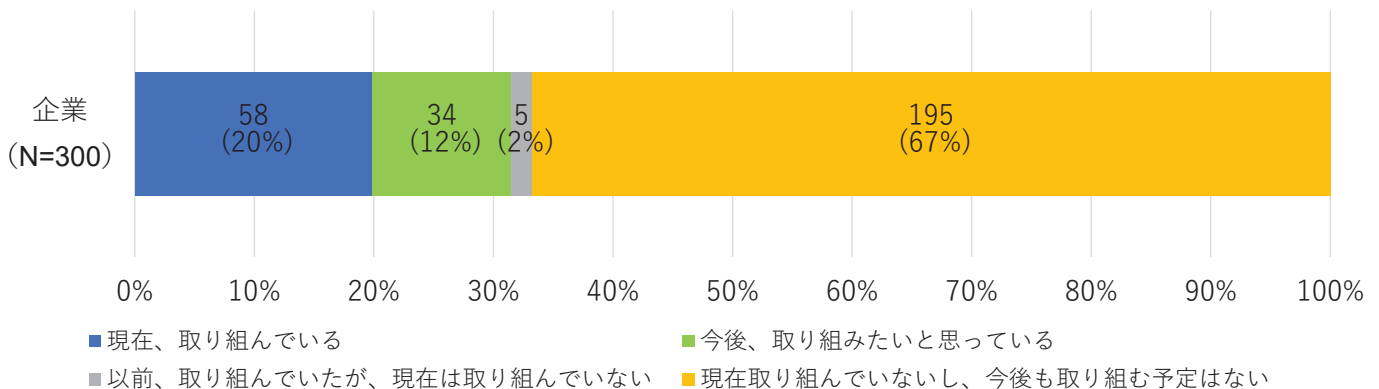
企業が自社の強み（経営資源・専門性等）を活かし、社会のニーズを満たしたり社会問題を解決したりすることで社会的価値を創造し、同時に企業価値や競争力を高めることである（例：高齢者が使いやすい反射材付きの合羽の開発、宅配便事業者による高齢者の安否確認サービス等）。

## CSVの取組状況

○CSVに取り組んでいる企業は約20%であり、CSRに取り組んでいる企業が約85%であるのと比較して、低い水準となっている

### 【CSVを意識した取組】

Q5-1 貴社では、自社のノウハウを活かし、交通安全の向上に関わる製品を開発するなどCSV（共通価値の創造）を意識した取り組みをしていますか。



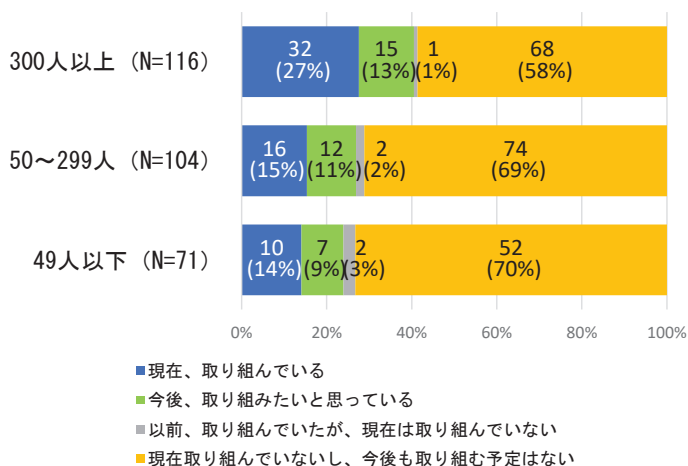
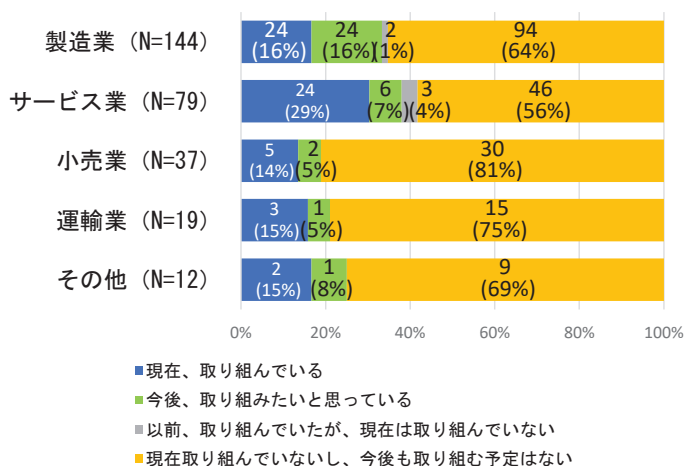
# CSVの取組状況（業種・規模別）

- サービス業でCSVに取り組んでいる企業が比較的多い
- 従業者数が多い方が、CSVに取り組んでいる企業が多い

## 【業種×CSVを意識した取組】

## 【従業者数×CSVを意識した取組】

Q5-1 貴社では、自社のノウハウを活かし、交通安全の向上に関わる製品を開発するなどCSV（共通価値の創造）を意識した取り組みをしていますか。



# CSVを意識した取組内容

## 【CSVを意識した取組内容】

Q5-2 Q5-1で「1.現在、取り組んでいる」もしくは「2.今後取り組みたいと思っている」と回答された企業にお伺いします。その具体的内容についてご記入ください。

- 交通安全に関わる製品の開発・生産・販売（16社）
  - ・小中学生用の自転車通学用ヘルメット、反射材付きのランドセル、靴など
  - ・高齢者用の反射材付きの帽子、靴など
  - ・おいしいノンアルコール飲料
  - ・自動車の運転支援システム
  - ・安全に寄与する自動車部品（エアバッグ、ブレーキ等）
- 交通安全に関わるサービスの提供（8社）
  - ・交通事故の際に迅速に救急サービスやロードサービス等に連絡ができるスマートフォンアプリ
  - ・高齢者見守り訪問サービス（ガス検針時など）
  - ・車載通信機を通じて取得した車両運行情報（走行距離および運転特性）等を、安全運転アドバイスや自動車保険料の算出などに活用する保険

※Q5-2の回答が空白の場合は除外している

# CSVの取組内容

## 【「1.現在、取り組んでいる」と回答した企業】

Q5-1 貴社では、自社のノウハウを活かし、交通安全の向上に関わる製品を開発するなどCSV(共通価値の創造)を意識した取り組みをしていますか。

業種	CSV内容(Q5-2)
その他製造業	小中学生の自転車通学用ヘルメット
	安全運転に寄与できる自動車ガラス製品の開発
	自動運転支援や安全性向上のための各種製品を開発・製造
	おいしいノンアルコール飲料の製造
金融業・保険業	事故の際の救急サービス・ロードサービス連絡用「スマートフォンアプリ」の製作
	最新テレマティクス技術を活用した安全運転につながるサービスの提供
運輸業・郵便業	エコ安全ドライブ運転・みまもり訪問サービス(有料)
卸売業・小売業	自動ブレーキ等ASV装着車両の積極販売
電気・ガス・熱供給・水道業	AI、IoTを活用した子ども見守りサービス
その他サービス業	交通安全の御祈禱及び啓発
	レンタカー事業において「安全運転サポート車」を積極的に導入
その他	自動運転の研究開発。運転支援システムの研究開発

※業種が不明の場合やQ5-2の回答が空白の場合は除外している

# CSVを意識した取組を行っていない理由

## 【CSVを意識した取組を行っていない理由】

Q5-3 Q5-1で「3.以前、取り組んでいたが、現在は取り組んでいない」もしくは「4.現在取り組んでいないし、今後も取り組む予定はない」と回答された企業にお伺いします。その具体的な理由についてご記入ください。

- 事業内容が交通安全と関連しない (79社)
- 実施すべき内容がわからない (40社)
- 時間的な余裕がない (19社)
- 必要性が理解できない (2社)

※Q5-3の回答が空白の場合は除外している



# 対策の受容性

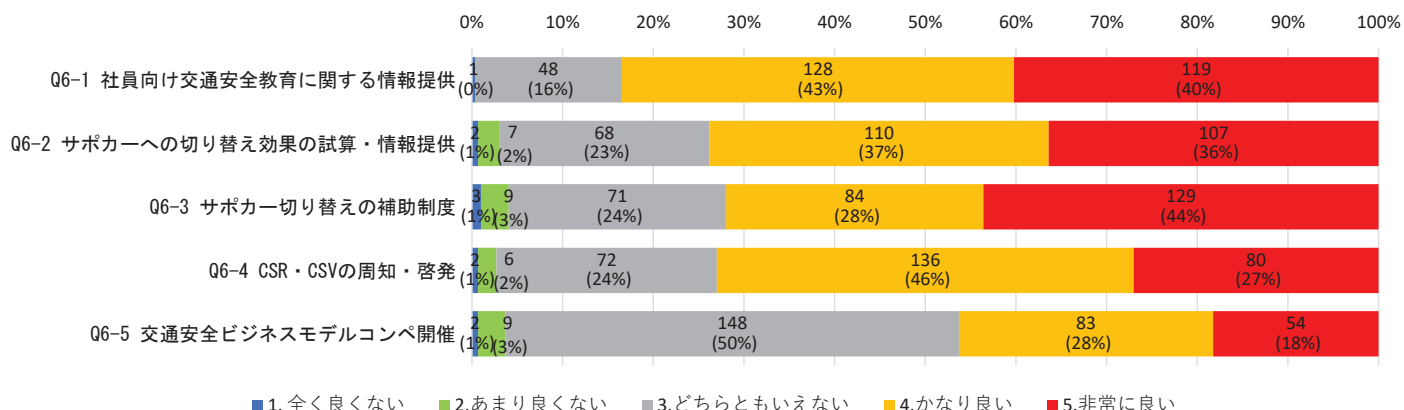
## 交通安全に関するCSR・CSVを支援する対策

○CSR・CSVを支援する対策として、「社員向けの交通安全教育の方法や効果(経済的・社会的)に関する情報提供を行うこと」や「社用車等の安全運転サポート車への切り替えに対する補助制度を検討すること」が特に支持されている

### 【CSR・CSVを支援する対策】

Q6 企業の交通安全に関するCSR(企業の社会的責任)やCSV(共通価値の創造)を支援する以下のような対策について、貴社はどのように感じますか。それぞれについて、当てはまるものに○をつけてください。

- Q6-1 社員向け交通安全教育の方法や効果(経済的・社会的)に関する情報提供を行うこと
- Q6-2 社用車/従業員通勤車の安全運転サポート車への切り替えがもたらす効果(経済的・社会的)の試算やその情報提供を行うこと
- Q6-3 社用車等の安全運転サポート車への切り替えに対する補助制度を検討すること
- Q6-4 交通安全CSR・CSVに関する周知・啓発のためのパンフレット(事例を含む)等を作成すること
- Q6-5 産学連携による交通安全ビジネスモデルコンペ等を開催すること



# 交通安全対策に関する自由記述

## 【交通安全対策に関する自由記述】

Q7 上記以外で企業の交通安全に関するCSR(企業の社会的責任)やCSV(共通価値の創造)を支援するために効果的だと思う対策や、その他、愛知県の高齢者の交通安全対策に関するご意見等ございましたらご自由に記入ください。

### <CSR・CSVを支援するための対策に関する意見>

- ・企業は理念だけでは動かないので、社用車を安全運転サポート車に切り替えるためには、コストを回収できる補助金、税制メリットが必要
- ・愛知県は製造業の企業が多く、雇用も多いため、製造業の事業所や従業員の意識を改革することによる影響力が大きい
- ・CSRについては、活動する場を提供してもらおうと企業も動きやすい
- ・CSVについては、会社にメリットが出る内容を見出すのが難しい
- ・余裕がない中小企業に対する活動サポートを強化してほしい

# 交通安全対策に関する自由記述

## 【交通安全対策に関する自由記述】

### <愛知県の高齢者の交通安全対策に関する意見>

合計137件の自由記述

#### ○高齢ドライバー対策

- ・長く安全に運転できるような、安全運転の教育トレーニングを専門に行う機関の設立
- ・高齢者手前の方(60~64歳)に対するサポカー購入補助
- ・免許更新時、高齢者講習会での危険箇所等への注意喚起の拡大
- ・免許返納による特典について、自治体毎の差をなくした上で強化し、免許返納を促進

#### ○高齢歩行者に関する対策

- ・外出する際の反射材活用を条例等で義務付け
- ・高齢者用の信号押しボタンの設置(青信号の時間が長くなる)
- ・横断歩道の両端に人感センサーを設置し、感知後横断歩道が点滅する仕組みの導入

#### ○自転車に関する対策

- ・自転車運転時のヘルメット着用を義務付け
- ・自転車の正しい乗り方に関する意識のさらなる普及・啓蒙活動

#### ○その他

- ・食品・日用品の配達制度の充実
- ・中央線や車両境界線、横断歩道などの道路標示が消えており分かりづらい道路が多く、メンテナンスが必要

# まとめ

## CSRに関する取組

- ・約85%の企業がCSRに対する取組を実施している
- ・交通安全に関しては、交通安全担当者の配置・組織の設置、社員向け交通安全研修、交通安全立哨活動を行っている企業が多い
- ・小売業でCSRに取り組んでいない企業が比較的多い
- ・従業者数が多い方が、CSRに取り組んでいる
- ・取組を行っていない理由としては、「時間的な余裕がない」とする企業が多く、「貢献できることがわからない」といった企業もある

## CSVに関する取組

- ・CSVに取り組んでいる企業は約20%であり、CSRに取り組んでいる企業が約85%であるのと比較して、低い水準となっている
- ・サービス業でCSVに取り組んでいる企業が比較的多い
- ・従業者数が多い方が、CSVに取り組んでいる企業が多い
- ・CSVの内容として、「交通安全に関わる製品の開発・生産・販売」を行っている企業が多く、安全具、運転支援デバイスなどの開発・販売に取り組む企業が多い
- ・取組を行っていない理由として、「事業内容が交通安全と関連しない」とする企業が最も多く、次いで「実施すべき内容がわからない」とする企業が多い

## 対策の受容性

- ・CSR・CSVを支援する対策として、「社員向けの交通安全教育の方法や効果(経済的・社会的)に関する情報提供を行うこと」や「社用車等の安全運転サポート車への切り替えに対する補助制度を検討すること」が特に支持されている